

ハレの日のごちそう



茶弁当
ちやべんどう

(草津宿本陣蔵)

草津宿本陣には、当主・田中七左衛門家が使用したとされる江戸時代の「茶弁当」が伝わっています。茶道具などを持ち運ぶことができるもので、遊山の時などに使用したと考えられます。野点を楽しむことができるため、野弁当とも呼ばれる道具です。

屋根型の蓋を左右に開くと、上段には角形の注器と、直方体のような形の爛銅壺(かんどうこ)が納められています。爛銅壺では、片側に炭を焚き、片側でお湯を沸かすことができました。使用後に収納するとこの熱が上がるため、外箱の蓋

は銅製となっています。下段には、黒漆塗で印籠蓋の重箱、蓋のない箱、二方棧の三段重箱の3つが収納されます。三段重箱のみ、内側が朱漆塗となっています。すべてを収納し、前後面にそれぞれある半弧状の金具を上に向けると、外箱の上部中央の四角いくぼみとあわせ担ぎ棒で貫くことができます。この棒を、2人で手に提げて運んだようです。

茶弁当を持つての外出は、本陣職で忙しい田中家の人々にとってはちょっとした旅だったかもしれません。

(令和4年9月・草津宿本陣 松浪 千紘)